

ユネスコの包括的セクシュアリティ教育 (CSE)を視覚化する

—— 「CSE メトロマップ」と「ハピネスパークのある街」の絵 ——

小貫 大輔*

はじめに

1. 包括的セクシュアリティ教育が目指すのは「幸せ」
2. 包括的セクシュアリティ教育のテーマを表現する8つの「フラッグ」
3. 「セクシュアリティ教育のある街」の巨大な絵を描く

おわりに

はじめに

東海大学の教養学部は2015年度に「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet)」に加盟。以来、関東圏の幼・小・中・高・大のユネスコスクールのネットワークを支援してきました。学部の授業でも「人間学1」および「人間学2」という科目でユネスコスクールについて学び、近隣のユネスコスクールと交流する活動を続けています。2021年度には、ユネスコが推進する「包括的セクシュアリティ教育」という性教育の考え方をテーマに活動することになり、「人間学1」の授業ではその内容を学び、「人間学2」の授業では教材開発に力を入れました。

ユネスコは2009年に *International Technical Guidance on Sexuality Education* (日本語名『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』、以下では『ガイダンス』と略す) を出版し、2018年にはその改訂版を出してセクシュアリティに関する教育を世界に普及させようと努力しています¹⁾。2018年版の『ガイダンス』では、「包括的セクシュアリティ教育 (Comprehensive Sexuality Education、以下では CSE と略す)」という言い方が打ち出され、以来、世界の国々の性教育に大きな影響を与えてきました。

「包括的 (comprehensive)」という言葉は、言語によっていくらかニュアンスの違う言葉に翻訳されていて、例えばスペイン語では "integral" だったり、中国語では「全面的」だったりしますが、大雑把に言って「ホーリスティックで、知識を伝えることだけに偏重せず、性の様々な側面をカバーする」といった広い意味で使われています。そもそも、「セクシュアリティ教育 (sexuality education)」という表現には、単なる「セックスの教育 (sex education)」ではない、つまり「広く人間の性と生の全般に関わる教育」なのだというメッセージがあります。「包括的」という言葉を接頭辞のように付け加えるのは、そのことをさらに強調する意図もあってのことでしょう。『ガイダンス』では CSE の8つの主要テーマが提示されていて、その中には人間関係、価値観、ジェンダー観といった「性の文化・社会的側面」や、性暴力の予防や健康・幸せのためのスキルといった「具体的行動の側面」、第二次性徴や発育発達、人間の性行為、避妊・感染症予防といった「からだと心に関わるテーマ」が含まれます。

しかし、CSE の8つのテーマを横並びに提示する『ガイダンス』は、「包括的」であることを目指して「網羅的」になっているきらいがあり、全体の構造が複雑で理解しづらいところがあります。そこで私たちは、CSE の全体像が一眼でわかるような工夫として、8つのテーマを視覚化したインフォグラフィックを作成することにしました²⁾。

インフォグラフィックの試作版ができた段階では、高校生や大学生たちに集まってもらって CSE の全体像を「心と体を使って体験することを目指したワークショップも開催しました。作成したインフォグラフィックは、CSE のそれぞれのテーマを地下鉄の路線に見立てて「路線図」の形で提示するものなのですが、そのような地下鉄の 8 路線が走る「街」の姿を、大きな絵にして描いてみよう、というワークショップを開いたのです。このワークショップには、北海道と東京の二つのシュタイナー学校の高中生たちと東海大学の二つの学生サークルのメンバーたち、総勢で 40 人ほどが参加してくれました。

本稿では、CSE を視覚化するべく取り組んだインフォグラフィック作成のプロセスと、その成果物を使って開催した「CSE のある街」の巨大な絵を描くワークショップの様子を報告したいと思います。

1. 包括的セクシュアリティ教育が目指すのは「幸せ」

2018 年の改訂版、*International Technical Guidance on Sexuality Education* (『ガイダンス』) の中で、ユネスコをはじめとする関連の国連機関は以下の 8 つのテーマを「キーコンセプト」として提示しています。

1. 人間関係
2. 価値観、権利、文化とセクシュアリティ
3. ジェンダーを理解する
4. 暴力と安全
5. 健康とウェルビーイングのためのスキル
6. 人間のからだと発育発達
7. セクシュアリティと性行動
8. 性と生殖の健康

『ガイダンス』では、子ども時代が 4 つの年齢区分 (5～8 歳、9～12 歳、12～15 歳、15～18 歳) に分けられ、上の 8 つのテーマごとにそれぞれの発達段階におけるいくつかのトピック (キーアイデア) が例示され、「知識面」、「態度面」、「スキル面」のそれぞれにおける学習目標が例示されています。「8 つのテーマ」x 「いくつかのトピック」x 「4 つの年齢区分」x 「学習目標の 3 つの側面」という複雑な構造となっているために、この出版物には確かに読みづらいところがあります。

そのような複雑な構造を一眼で見せるにはどうしたらいいでしょうか。それを考えていたときに出会ったのが、ベルギーのユネスコスクール関係者が SDGs をインフォグラフィック化したときのアイデアでした。

SDGs も、17 個もの目標 (ゴール) があって複雑な構造となっています。それを何とか視覚化しようと、ベルギーの人たちは SDGs の目標の一つ一つを地下鉄の路線に見立て、それぞれの目標の中に出てくるキーワードを抜き出して駅名にすることで「SDGs メトロマップ」なるものを作成したのです。そのアプローチにならって、私たちが授業を通じて『ガイダンス』を深く細かく読み込むことから始め、CSE の 8 つのテーマに関連する重要なキーワードを抽出し、キーワード同士の関連性や距離を考慮してメトロマップに仕立てていく作業に取り組んでみました³⁾。

「CSE メトロマップ」を作る過程で湧いてきた一つの重要なアイデアがあります。「この地下鉄の走る街の中心に中央公園を置こう。その名前はハピネスパークとしよう！」というアイデアでした。ちょうど 3 月 20 日の「国際幸福デー」が迫っていたときで、「CSE メトロマップ」はその国際デーにちなんで開くイベントで発表しようとしたことから生まれたアイデアでした。

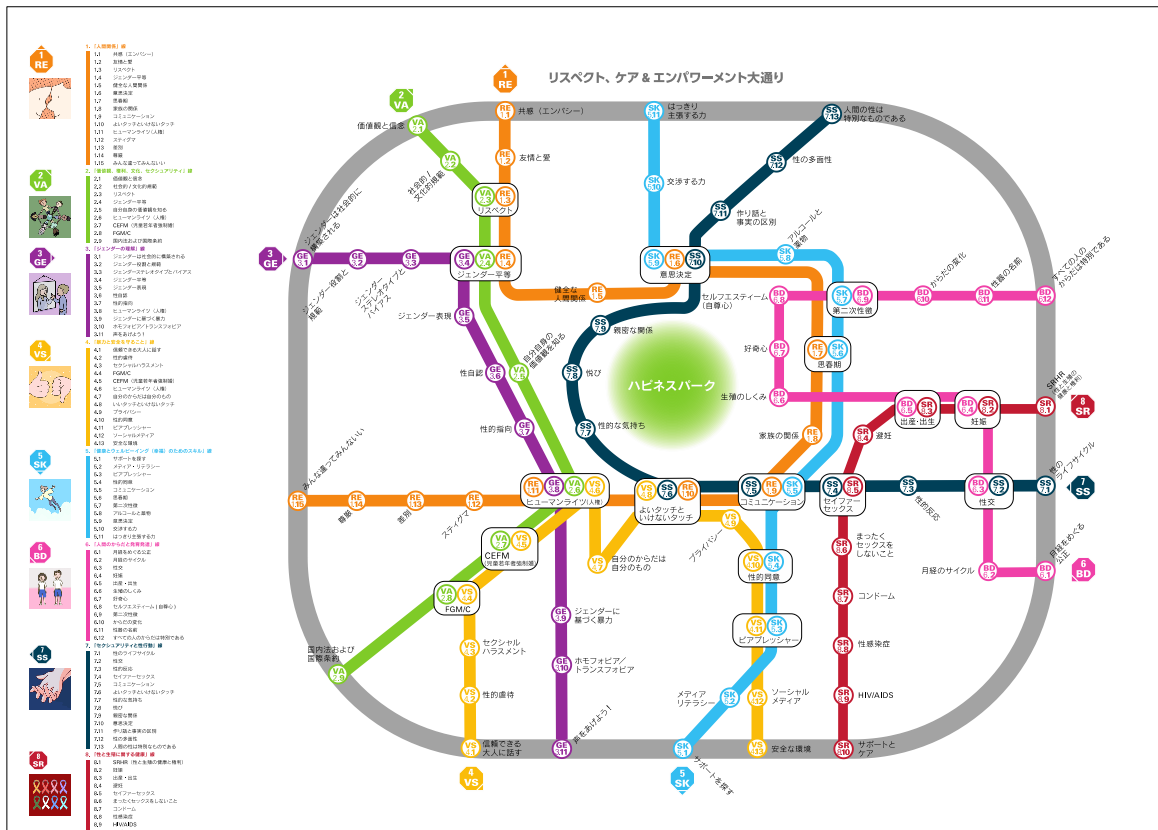
性教育の目的は「子どもたちの幸せ」である…、それはある意味当たり前のことのようにですが、これまで実はしっかりと意識化されてこなかったのではないのでしょうか。学生の皆さんに性教育についてどう思うか聞いてみると、あまりいいイメージを持たないという人がたくさんいます。どうやら「気持ち悪い話」や「おっかない話」を聞かされる、あるいは「倫理意識を押し付けられる」授業のように感じてしまうようなのです。セクシュアリ

ティの教育が目指すのは、そんな風に子どもたちの「性」に制限をかけることではないはずです。目指すべきは、子どもたちが自分らしく自分の性を生きる力を身につけるための教育であるはずです。そのことをはっきりと示すためにも、「CSE メトロマップ」の真ん中に「ハピネスパーク」を置くことは、それ自身で一つの重要なメッセージになると思えたのです。

しかし、「幸せ」って何のことでしょうか。「悲しみ」や「痛み」、「辛いこと」の反対語でしょうか。セクシュアリティの教育が目指すのは、望まない妊娠やセックスで感染する感染症、あるいは性暴力の被害を予防することにあるのでしょうか。

WHO (世界保健機関) は、「健康」の概念を定義して「肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」としています。その表現を借りれば、「幸せとは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に不幸せでないことではない」と言えるかもしれません。古代ギリシアの思想家たちは、「心地よいことの幸せ」と「自分の人生を自分らしく充実して生きていることの幸せ」を区別して考えていたようです。前者は「ヘドニア (hedonia)」といい、後者は「ユーダイモニア (eudaimonia)」といいます。その言葉を使えば、「幸せとは、単にヘドニアが阻害されていないことではなく、ユーダイモニアが実現していることである」とも言えるかもしれません。

ユネスコの『ガイダンス』の中で語られる CSE のキーマイディアには、随所にユーダイモニアの感覚が散りばめられています。特に「1. 人間関係」や「2. 価値観、権利、文化とセクシュアリティ」そして「3. ジェンダーを理解する」のテーマは、ユーダイモニアと直結する箇所と言えるでしょう。男女の別や、性的指向・性自認の違いが理由で、自分の人生を自分らしく生きることが認められなかったら、ユーダイモニアは阻害されているとしか言えません。どうしたらそのような偏見や差別を乗り越えることができるのか、家族やコミュニティ、社会や文化の価値観が自分の価値観と対立するときにはどうしたらいいか、などを考え、話し合い、様々なコミュニケーションの方法や解決策を試してみることが『ガイダンス』の中では学習目標として挙げられています。



「CSE メトロマップ」と、各路線の路線名および駅名のリスト

ユーダイモニアの実現を目指すという点において、CSE はいたって変革的な教育です。変革的 (transformative) な教育とは、一人一人の生き方が変わるような教育のことですが、そのような教育は社会全体が変容することを促す教育でもあります。そのことに思い至ったとき、私たちは「ハビネスパーク」が真ん中にある街は、他者へのリスペクトとケアが育つ街でもあることに気づきました。それで、「CSE メトロマップ」には、地下鉄の各線の始発駅・終着駅をぐるりと結ぶ「リスペクト&ケア大通り」という環状道路をつけることにしました。勉強会の参加者から「エンパワーメントも入れよう」という声が出て、最終的には「リスペクト、ケア&エンパワーメント大通り」という名前になりました。

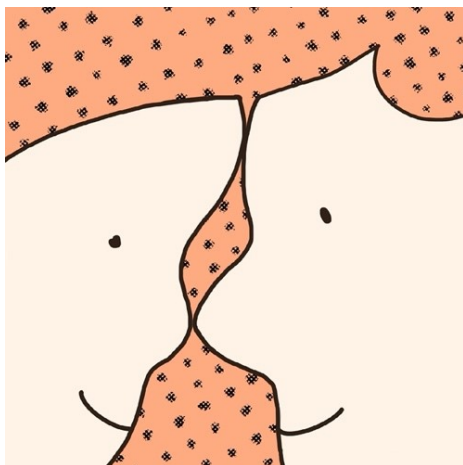
このメトロマップに出てくる駅名と、駅と駅間の位置関係は、あくまでも私たちの「試案」に過ぎません。地域ごと学校ごとの実情に応じて、あるいはもっと大きく国ごとの文化の違いによって、たいせつなキーワード (駅名) は変わってくることでしょう。私たちが作った「試案」を、それぞれの現場の CSE 実践について考えるたたき台としていただけたら幸いです。

2. 包括的セクシュアリティ教育のテーマを表現する 8 つの「フラッグ」

「CSE メトロマップ」を作る作業に最初から最後まで付き合いくれたデザイナーの橋口さんは、CSE の 8 つのテーマを表現する「フラッグ」のような画像がほしいねとずっと言っていました。幸い、橋口さんのお連れ合いの橋口由紀さんは、イラストを描くのが得意なデザイナーです。8 つのテーマを象徴するイメージについて、私と橋口さんがあれでもないこれでもないと言うのを聞いて、由紀さんが以下に続く 8 つのイラストを描いてくれました。

「CSE メトロマップ」自身は、インフォグラフィックとは言っても各路線の名前 (CSE の 8 つのテーマ) や駅名 (CSE のキーワード) を文字の形で載せているので、いちいちそれを読まないと内容がわからないようになっています。それに対して「フラッグ」の方は、純粋に視覚のみに訴えるものです。しかし、それぞれのイラストは CSE の 8 つのテーマのエッセンスだけをデザイン化したものなので、ただそれを見るだけではきっと何を意味するのかわからないことでしょう。以下、一つ一つのフラッグについて簡単に説明したいと思います。

キーコンセプト 1 「人間関係」を表現したフラッグ



「人間関係」のフラッグ

このフラッグは、CSE のテーマ (キーコンセプト) の 1 番目「人間関係」を表現したものです。「人間関係」とは実に幅の広いテーマで、どんなイメージをフラッグにしたらいいいものか悩まされましたが、結局、二人の人間が「あいさつ」をしている様を使うことにしました。このフラッグでおでこと鼻をくっつけているのは、ハワイで「ホニ」と呼ばれる伝統的なあいさつの仕方です。私たちは、「あいさつ」という何気ない日常の行為を通じて、その文化特有の人間関係の形を学んでいます。ある文化では、毎日毎日お互いの顔と顔を寄せ合ってキスを交わし、(日本人から見れば) 実に親密な関係を築いているかと思うと、他の文化では、ぶつかり合うようにお互いの目をしっかりと見つめあい、力比べのように右手と右手で握手をします。日本式の「おじぎ」には、どんな人間関係のメッセージが込められているのでしょうか。

キーコンセプト2 「価値観、権利、文化とセクシュアリティ」を表現したフラッグ



「価値観、権利、文化とセクシュアリティ」のフラッグ

CSE の 2 番目に出てくるこのテーマは、単に文化の力を礼賛するものではありません。性をめぐる個人の価値観は、その人の生まれ落ちた文化に支えられて育っていくものです。しかし、ときに家族やコミュニティの持つ文化が個人に対して抑圧的に振る舞うことも事実です。そのような文化の二面性にどう対処したらいいかを考えようというのが、このテーマの課題です。そのときに基礎となるのは人権の感覚です。フラッグでは、人権や正義を表現するイメージを使おうかと思ったのですが、なかなかうまくいきませんでした。それで、世界の多様な文化を尊重し合うことを表現したイメージを使うことにしました。

キーコンセプト3 「ジェンダーを理解する」を表現したフラッグ



「ジェンダーを理解する」のフラッグ

ジェンダーとは、社会的・文化的に形成される男女の区別・差異のことです。社会・文化が「男はこうあるべき、女はこうあるべき」と決めつけることで生まれる男女間の格差や不平等を疑問視し、個々の人間が自分らしく生きることのできる社会を作ろうというのが、このテーマの課題です。そもそも人間を男と女の二つに分けて考えること自体を見直し、多様なジェンダー・アイデンティティ（性自認）や性の指向があることを理解することも、このキーコンセプトの重要な課題です。このフラッグは、男女の別は必ずしも絶対的なものではないことを表現したものです。

キーコンセプト4 「暴力と安全」を表現したフラッグ



「暴力と安全」のフラッグ

性をめぐる暴力と、そこから身を守り安全を保つ術について学ぶのが4番目のテーマです。性暴力をそのままイラストにするとあまりに辛いイメージになってしまうと考えて、親指を立てて「いいね」を示すジェスチャーと、その親指を下に向けて「よくないね」を示すジェスチャーで、それぞれ暴力と安全を表現しました。親指を使ったジェスチャーには、文化によってまったく違った意味があるかもしれません。そのことにはよく注意して、このフラッグを活用してもらえればと思います。

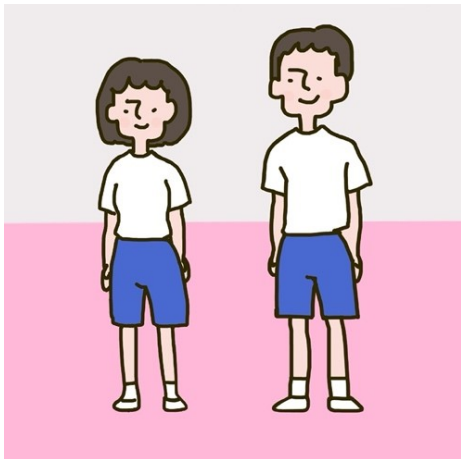
キーコンセプト5 「健康とウェルビーイングのためのスキル」を表現したフラッグ



「ウェルビーイング」とは「よい状態」という意味で、日本語では「福祉」と訳されることも「幸福」とも訳されることもあります。上の項でも説明した通り、「健康」も「ウェルビーイング」も単に「不健康でないこと」や「不幸でないこと」という意味ではありません。自分らしく生きている充実感を「ユードイモニア」と言う説明しましたが、そのためにはそれを可能にするスキルを身につけなければいけません。空を飛ぶように、自分の人生を自分らしく、自由自在に生きている様を表現したのがこのフラッグです。

「健康とウェルビーイングのためのスキル」のフラッグ

キーコンセプト6 「人間のからだと発育発達」を表現したフラッグ



CSEの6番目のテーマは、伝統的な意味での性教育の主題である第二次性徴や、その時期に起きるからだの変化、そこから生まれる心の不安やセルフエスティームの問題などを扱うものです。フラッグでは、日本の小学校の保健体育の教科書によく出てくるイラストのイメージを使わせてもらいました。

「人間のからだと発育発達」のフラッグ

キーコンセプト7 「セクシュアリティと性行動」を表現したフラッグ



7番目のテーマは、性の行為がテーマです。フラッグ作りで一番工夫したのが、この絵だったと言えるかもしれません。人間のセックスはとっても特別なものであって、動物の交尾のように生殖を目的として性器を結合させるだけの行為ではありません。性教育の絵本などを見ると、裸の男女が上下に重なって横になっているイラストでセックス（性交）を表現することが多いようですが、微妙な心の動きをも表現する、もっと「センシュアル」な表現はないかと考えて、このような手を重ね合う図柄を使うことにしました。

「セクシュアリティと性行動」のフラッグ

キーコンセプト8「性と生殖の健康」を表現したフラッグ



「性と生殖の健康」のフラッグ

8番目の項目は、妊娠の過程と望まない妊娠の予防、そして性感染症とその予防について学ぶ箇所です。それを表現するのは意外に難しいものでした。例えばコンドームやピルを図柄にすることもできたのかもしれませんが、それだと一面的にすぎると考えて、結局「レッドリボン（エイズを巡る連帯の象徴）」をはじめとする、性と生殖の健康の様々なテーマを象徴する、様々な色の「リボン」をイラストにすることにしました。

これら8つのフラッグができてからは、高校生や大学生に向けて性教育の授業をするたびごとにそれらを見て、それぞれがどのテーマを象徴するか当ててもらっています。そのワークをするだけで1時間もかかったりするのですが、性教育とは単にセックスについての教育ではないことを理解してもらうのに、たいへん役に立つ教材だと感じています。

3. 「セクシュアリティ教育のある街」の巨大な絵を描く

CSE メトロマップと8つのフラッグを「国際幸福デー」のイベントで発表したすぐ後に、北海道のシュタイナー学校の11年生（高校2年生）たちが修学旅行で訪ねてきてくれることになりました。これはいい機会だと思い、ついでに立川にある別のシュタイナー学校の11年生にも声をかけて、1日かけてCSEについて考えるイベントを開きました。東海大学の学生サークルで多文化交流を目的とする「ベイジョ・メ・リーガ」と、ジェンダーについての勉強会を繰り返している「ヴォイス」のメンバーにも参加してもらい、総勢40人ほどで「CSE メトロマップ」について議論して、それをもとに「CSE とハピネスパークのある街」の巨大な絵を描くワークショップをしたのでした。

初めて出会う人がたくさんいるイベントだったので、最初はウォームアップに十分時間をかけました。「ピオダンサ（いのちのダンス）」という南米発の出会いのワークから始め、二人の講師のファシリテーションに従って参加者たちは音楽に合わせて自由に踊り、2人組、3人組、5人組でからだを動かし、次第次第にお互いに出会っていったのでした。

打ち解けた雰囲気が出てきたところで本題に入り、まずは8つのフラッグの意味をあてるクイズを通じてCSEの全体像を捉えることから始め、次に小グループに分かれてCSEメトロマップに細かく目を通す作業をしました。キーワードの中にはほとんどの人が聞いたことのないようなものも含まれていたため、それらの意味を全員で確認してから、どんな絵を描いたら「CSE とハピネスパークのある街」を表現することができるか大雑把な計画を話し合ってもらいました。みんなと一緒に巨大な紙に絵を描く作業に取り組みたい人、小さな画用紙に自分の絵を描きたい人、いろいろなメンバーがいて、それぞれのやりたい作業に取り組んでもらうことにしました。

巨大な紙への最初の一筆は、教養学部芸術学科の卒業生、矢澤珠美さんに入れてもらいました。「即興画作家」として活動している新進気鋭の芸術家です。矢澤さんは、ピンクを染ませた大きな筆を春の風のように舞わせて、全体に軽々としたトーンを作ってくれました。会場となった教室の窓の外では、桜の木々がちょうど満開を迎えていました。

幅1.5m、長さ8m弱の大きな画用紙をぐるりと囲んだ参加者たちは、紙の上下から筆を入れ、しばらくすると自由に持ち場を移動して、人が描いた箇所にも上から手を加え、共同で一つの作品を作っていました。半数

ほどのメンバーがその作業に取り組む一方、残りのメンバーたちは別室で小さな画用紙にそれぞれの絵を描く作業につきました。そもそも筆の数が十分でなかったこともあって、指や手のひらに絵の具をつけて描いている人もたくさんいて、やがて、お互いのシャツにその手を押し付けて手形をつけたり、名前やメッセージを書いたりすることが始まりました。そんなことにはおかまいなく集中して作品に没頭している人もいました。1時間半もワイワイやっていたでしょうか、さて、そろそろ切りをつけてみんなで作った作品を鑑賞しようと、全員で大きな絵の周りに集まりました。



高校生と大学生が「包括的なセクシュアリティ教育とハピネスパークのある街」の巨大な絵を描いている様子

小さな画用紙の方に絵を描いていた人たちから先に、順番にそれぞれの絵の説明をしてくださいました。小さな顔がたくさん描かれている絵は何の絵に見えますか。「みんな違って、みんないい (Everyone is a unique human being)」を表現したのだとのことでした。その隣の、暖色系の背景に白い影が浮いている絵はどうでしょう。「精子？」という声に会場から笑いが湧きます。正解は「友情と愛」なのだそうです。その隣の、おわんが二つ上下しているような絵は「交渉するスキル」だそうです。「なるほど！」の声が上がりました。



「包括的なセクシュアリティ教育」のキーワードを絵にした作品

そんな風に小さな絵の方を一巡した後、今度は大きな絵の方に参加した人たちから感想を聞きました。一人ひとりで描くのと違い、「何の絵」と決めて描くという作業ではなかったようでした。「音楽が好きなので」と、絵の全体にリズム感を与えることに取り組んだ人もいました。絵の中心近くに「太陽」のような図柄がありますが、最初は「波紋」が広がる様子をイメージして描き始めたのだそうです。誰かの言葉やおこないが、水色の波紋となって広がる様子。いい波動も、悪い波動も、そうして周りに影響を与えていく様を描いたのだそうです。しかし、後から手を加えた人たちは、そこに太陽のエネルギーを感じて黄色いストロークで太く力強い光を加えてい

きました。みんなで四方八方から取りかかって描いていたので、どちらが上とか下とか誰も考えていなかったのですが、「この部分が、ハピネスパークの上空にかかる大きな太陽なんだね」ということになって、絵を展示するときの上下の向きも決まっていたのです。



完成した「包括的なセクシュアリティ教育とハピネスパークのある街」の巨大な絵

完成した巨大な絵は、すべてが明るく美しい「ハピネス」に満たされたわけではありませんでした。太陽の図柄から離れた左下の方に、暗い色でタコの脚のような図柄が描かれているのがわかるのでしょうか。私たちの社会には性やジェンダーをめぐる悲しい出来事がたくさんあります。性的な虐待やハラスメント、ジェンダーに基づく暴力などは、どんな社会でも大きな問題です。女性器を切除したり縫い合わせてしまったりする残酷な風習 (FGM/C) や、年端もいかない少女を無理やり結婚させる因襲 (CEFM) が残っている地域もあります。絵を描く前のディスカッションでも、そういう問題のことが話題となりました。そのことが気になった人がいて、ドス黒い赤を使って性をめぐる闇の部分を描き込んだのだそうです。タコの脚から逃れてハピネスパークに向かう道筋に、“LOVE”の文字が浮き上がっているのが印象的に思いました。

おわりに

3ヶ月間かけて作った「CSE メトロマップ」や「8つのフラッグ」でしたが、試作品ができてすぐに、高校生や大学生の集まるワークショップを開けて本当によかったと思います。高校生や大学生たちからいろいろフィードバックをもらい、それをもとに CSE メトロマップをさらに改良することもできました。改めて最初の頃に手探りをしていたバージョンと比べると、ずいぶんと試行錯誤して出来上がっていった様子が思い出されます。

今後、多言語バージョンも作ってみたいものです。海外から日本に移住してきて暮らす子どもが増える中、日本語以外の言語での教材がますます必要とされています。幸い、『ガイダンス』の2018年版は、ユネスコのサイトから13ヶ国語でダウンロードすることができます。その中には、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、ネパール語、英語、タイ語、スペイン語といった、日本に住む外国人の多くが話す言語も含まれています。「メトロマップ」の駅名は基本的にこの本の中に登場する言葉ばかりなので、これら各国語版の該当ページを見れば、それぞれの言語で何と訳したらよいかも見つけられることでしょう。多言語バージョンが役に立つのは、公立学校に通う子どもたちのためだけではありません。日本にはたくさんの「外国学校」があって、それぞれの国の言葉で日本の学校とは異なった教育をしています。それらの学校では、どんな性教育をやっているのでしょうか。そもそも、性教育を取り入れているのでしょうか。そんなことを理解するためのプラットフォームとしても、ユネスコのCSEを多言語で紹介するサイトを作りたいものです。

これまで書いてきたように、CSEは個々人の幸せを目的とするものであると同時に、その幸せの実現のために社会そのものの変容を促そうとするものです。多様な性的指向・性自認を持つ人たちへの理解や、性的合意の必要性やその判断の基準など、社会全体で同時進行的に進展しなければいけない社会変容があります。しかし、日

本の現状はというと、ある学校に行った子どもだけがセクシュアリティやジェンダーについて学んで、そうでない学校に行った子どもたちは何も知らずに大人になっていくのが実情です。それでは CSE の目的はなかなか達成されるものではありません。CSE のことを、もっともっとたくさんの人たちに理解してもらえたらと思うところです。

注

- 1) 日本語で出版された翻訳書の題名は『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』という。明石書店から販売されている他、2018年の改訂版は以下の UNESCO のホームページからも無料でダウンロードできるようになっている。
<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167/>
- 2) 複雑で量の多い情報をデザイン化して視覚的に表現したもの。このインフォグラフィックの作成には、デザイナーの橋口博幸さんと画家でデザイナーの橋口由紀さんに多大な協力をいただいた。ベルギー発の「メトロマップ」のアイデアを紹介していただいた望月浩明さん（かながわユネスコスクールネットワーク（KAN）事務局長）にも感謝したい。
- 3) キーワードを選別する段階では、オンラインの勉強会を通じて『ガイダンス』の日本語訳作成メンバーの渡辺大輔さん（埼玉大学）と福田和子さん（#なんでないのプロジェクト）に有意義なアドバイスをたくさんいただいた。

Abstract

Visualizing UNESCO's Comprehensive Sexuality Education (CSE)
—— "CSE Metro Map" and a picture of the "City with a Happiness Park" ——

ONUKEI, Daisuke*

Having joined the "Interuniversity Network Supporting the UNESCO Associated School Project Network (ASPUUnivNet)" in 2015, Tokai University's School of Humanities and Culture has worked closely with Associated Schools (known in Japan as "UNESCO Schools") in the Kanto region. Every year we choose a topic from the list of important educational issues mentioned in SDG's Target 4.7 of Goal 4 (Quality Education for All) and promote related activities among Associated Schools. In 2021, we chose to work on the theme of "Comprehensive Sexuality Education".

The 2018 edition of the *International Technical Guidance on Sexuality Education (Guidance)*, published by UNESCO and other related UN organizations, introduced the term "Comprehensive Sexuality Education", which has since had a significant impact on sexuality education in countries around the world. The *Guidance* presents the following eight main concepts of CSE; 1. Relationships, 2. Values, Rights, Culture and Sexuality, 3. Understanding Gender, 4. Violence and Staying Safe, 5. Skills for Health and Well-being, 6. The Human Body and Development, 7. Sexuality and Sexual Behaviour, 8. Sexual and Reproductive Health. In an attempt to make this long list easily visualized, we created infographics representing the basic ideas of the eight themes.

One approach was to extract keywords from the description of the eight key concepts in the *Guidance*, and line them up in the form of a "Metro Map", that way, showing how the eight concepts are interconnected with each other. Another approach was to create "Flags" illustrating the central themes of the eight concepts. When the infographics were ready, we held a workshop with a group of high school and university students to work on an artistic expression of the "comprehensiveness" of sexuality education. Students collectively created a picture of the "city" where these Metro Lines run helping people access the "Happiness Park".

* School of Global Studies, Tokai University